

学習・意見交換会報告

「東京の消費者行政について」 ～消費生活部長とざっくばらんにトーク～



司会：野畑増広さん
(東京南部生協)

日時：2011年7月8日(金) 10:30～12:00

場所：東京都生協連会館 3階

参加者：36名

主催：東京消費者団体連絡センター・東京都生協連消費者行政連絡会

協賛：東京都消費者月間協賛事業

<スケジュール>

- ①開会挨拶： 竹内 誠(東京都生協連 専務理事)
- ②講演： 「東京都の取り組みについて」
講師 小笠原 広樹氏 (東京都生活文化局消費生活部 部長)
- ③消費者団体の活動紹介と質疑応答
- ④閉会挨拶・諸連絡： 矢野 洋子
(東京都消費者団体連絡センター 事務局長)



東京都生協連 竹内専務

<開会挨拶>

消費者庁ができて2年、さまざまな取組みにより対応してきていますが消費者被害は減っていません。昨年度行政訪問をして自治体の方にも理解してもらえてきました。直接自治体と話して知って対応できることがあります。東京は自治体数も多いので大変ですが、今日のお話も聞いて全体を理解してこれからも進めていきたい。

講演「東京都の取り組みについて」

1) 東京都の消費生活対策予算

予算額の推移と23年度予算の主な特徴、「地方消費者行政活性化基金」や「住民生活に光を注ぐ交付金」について。予算の中で公衆浴場クリーンエネルギー化推進など施設整備助成に多くを割く。基金をも活用して消費者行政の充実を目指す。光交付金は基金があるためか申請が少ない。

2) 震災への対応

都連とも連携をとって品不足の状況を調査・協会やメーカーに対するヒヤリング開始 知事からのよびかけと生協への要請などを行い、消費者センターへは、震災関連の相談があったら知らせてもらう措置をとった。(品不足、キャンセル、放射能関係、悪質便乗商法等)、この経験から、補正予算を組んで災害時の流通状況把握の仕組みづくりを整備し、買いだめ等のおこらない情報伝達のしくみをつくりたい。

3) 政策課題について

資料に基づき下記の5つの課題について22年度の取組概要と23年度の新たな取組について説明。

1. 消費者被害を防止し救済を図る。
2. 悪質事業者を市場から排除する。
3. 商品やサービスの安全・安心を確保する。
4. 「自ら考え行動する」消費者になるように支援する。
5. 消費者の意見や考えを、行政や事業者の活動に活かす。

質疑応答から



小笠原 消費生活部長

- Q. 小中学生に対する金融経済教育教材の配布について教えてください。
- A. モデル事業として小3と中2に向けて配布し、学校への理解もはかる。主旨を説明して消費者という立場を生徒たちにも理解してほしいと思う。
- Q. 光交付金の申請が少ないのはなぜ？
- A. 住民生活の中で光が当たっていないところに補助できるようにという交付金であるが、昨年12月に本格始動し、締め切りが1月9日だった。活性化基金もまだあり、広報も不足していて申請期間も短かったため申請しづらかったと思われる。(連絡センターより)
- Q. 有料老人ホームに関する入居一時金トラブルについて
- A. ごく短期間入居でも返されない例がある。被害救済委員会の事例にもある。パンフレットも作成した。注意喚起していく。
- Q. 貴金属買取りの訪問を受けたが対応は。
- A. 販売ではないため特別商取引法の対象にはならないが、都の条例などで取り締まりができる。相手にせず話を聞かないのがよいのではないか。事業者名がわかれば通報してほしい。
- 意見. 若者へのキャンペーンはこれからも続けてほしい。
- A. 車内広告等も利用して進めていきたい。

<閉会挨拶>

東京都の取り組みを知る機会が少なく、年に一度は都から話を聞き、ざっくばらんに意見交換をする機会を持ちたいと考え、今年で3回目となる。

都の予算は金額も大きい分野別や一人当たりといった見方も必要。震災後の消費者団体の協力についても確かな情報があつてこそと、東京都に要望書提出や、消費者団体が出来ることに対応してきている。本日の意見交換で得られた情報も活かして、今年度の区市町村消費者行政の取り組みである9月のキックオフ集会やそれに続く訪問・懇談につなげていきましょう。



連絡センター
矢野事務局長

<アンケートより(抜粋)>

- ・ これからも都民の為に大いにアイデアを出して、行動に移していただきたいものです。次回も楽しみにしております。
- ・ 東京都と東京都生協連との関係が相当密度高く、様々な取組にいかされている点が改めて明確に認識できた。
- ・ 都の先進的な対応が良くわかった。知らないことが多く、情報入手の良い機会となった。
- ・ 「ざっくばらんにトーク」は参加しやすく、よい企画だと思います。これからも参加していきたいです。
- ・ テーマが幅広いこともあり、中々的を絞った意見交換にはなりにくいですが、やりとりは今後の市等との消費者団体としての意見交換に生かせるヒントが多かった。

<まとめ>

3回目を迎えた“ざっくばらんにトーク”、小笠原部長の気さくなお人柄もあり予算等の硬い話題も聞き易く、震災関連の都の取組みも具体的に聞くことができた。また、東京都消費生活基本計画の政策課題について具体的な事例紹介で理解を進めることが出来た。

参加者からは、情報についてその大切さと受け止める自らの姿勢の反省など、知らせ、知ることの重要性を改めて感じた、都の取り組みを聞く機会が少なく良い企画だった、参加して話が聞けてよかった、今後の活動に活かしていきたい、などの意見が多く寄せられた。年1回の取り組みの重要性和共に、参加者増や硬いイメージの「消費者行政」への近づきやすさや広がり課題だ。